

# 2023年度 自己評価計画書

星稜高等学校

具体的取り組み	現 状	評価の観点 達成度判断基準
<b>教務課</b>		
1. 時間割変更をミスなく行い、生徒に確実に授業を提供する。	当日の朝の急な変更にも対応し、授業時間が確保できるように努力しているが、数件のミスが発生している。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
2. ミスが起こらない環境づくり、システム運用を行う。また、情報共有を確実に言い仕事の無駄をなくす。	成績処理や欠席処理の方法を再検討し、周知する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
3. 新学習指導要領の改訂に伴い、それに対応する学習評価方法を検証する。	昨年度の成績評価を見直し、教科と連携して成績処理が円滑に行われるように不都合な部分は検証する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
<b>進路指導課</b>		
国公立大学への進路の実現を希望する生徒・保護者が多い現状を踏まえ、各学年と共同し、1年生には学習習慣の定着とより適正文理選択を促し、2年生にはキャリアに繋がる学部学科研究を行う中で早い段階から受験意識の向上をはかる。	学校評価アンケートの「進学指導が充実している」の項目では、全学年に渡りポイントを大幅に向上できた。引き続き高い水準を維持できるよう、Classiを活用した新しい企画の導入を検討している。	満足度指標 A：全学年 70%以上 B：全学年 60%以上 C：全学年 50%以上 D：全学年 50%未満
最終学年となる3年生に対して多様な入試制度を理解させた上で、指定校推薦においては評定だけに頼らない選考基準の導入も検討し、自らの第一志望にしっかりと向き合える進路指導の機会を提供していく。殊に国公立大学においては、再受験者あわせて110名以上の合格を目指す。	志望理由書の提出が追加された指定校推薦だが、観点別評価による評定の二極化が課題であり、適切な選考方法の検討が急務と言える。また、新3年生の国公立大学受験志望者数は昨年比110%ではあるものの、成績が追いついていない。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
新しい時代に対応できる技能や思考力、表現力を身につけ、国際社会で尽力できる人材に育つよう、土曜講座GSPをより幅広い学問分野で構成されたものに工夫し、土曜日に主体的に活動する意欲を高め、適正な進路選択や学力向上にも寄与する。今年度は特に、理系講座の充実を図りたい。	「GSP JOURNAL」発刊で興味関心を高めつつも、1年Bコースの生徒一人あたりの年間講座登録率でTは36%だが、Rは15~31%、Sは16~28%とクラス間で大きな隔たりが見られ、Aコースでは土曜に塾通いを希望する生徒も散見している。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
進路指導課主導の行事や発行物等において、生徒の学習到達度状況や最新の進学情報について正確に伝達・発信できる環境を整備し、教職員はもちろんのこと、生徒・保護者とも十分に共有しながら、ひいては進学実績の向上に繋げていく。	学校評価アンケートの「進学指導に必要な情報は、生徒・保護者に対し十分に提供されている」の項目では、全体の満足度が58%→85%へと大幅に上昇し、「星稜タイムズVictory」も概ね好評である。	満足度指標 A：合計 70%以上 B：合計 60%以上 C：合計 50%以上 D：合計 50%未満
<b>生徒指導課</b>		
あいさつ運動を生徒主体で行うことにより生徒の自発的な挨拶を促し、教職員や外部の方々との爽やかな交流を通して、笑顔の溢れる学校生活の場を築く。生徒が運動しやすい雰囲気作りに取り組む。	昨年度は、生徒自らが積極的に挨拶を行うための「あいさつ運動」を年間通して実施することができたが、自発的と言えないのであいさつ運動自体を生活委員の活動に移行する。その活動がスムーズに移行できるようにエントランスで声掛けを行う。	努力指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
通学マナーを向上させながら、地域に貢献できる指導を目指す。 ・通学路巡回指導 ・東金沢駅周辺巡回指導 ・駐輪場マナー指導	*自転車通学マナー向上の為に自転車安全教室を実施する。 *地域・警察連携によるヤングイーグル隊の活動を実施する。 *県ライオンズクラブとの連携による、グッドマナーキャンペーン活動を実施する。 *意識を高めるための自己評価アンケートを実施する。	努力指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった

具体的取り組み	現 状	評価の観点 達成度判断基準
<b>総務広報課</b>		
学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないように、各学年・各課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。 ＊入学前オリエンテーション ＊入学式 ＊後援会総会 ＊保護者対象説明会 ＊保護者懇談会 ＊推薦入試・一般入試 ＊推薦専願合格者説明会 ＊卒業式 ＊入学説明会 ＊机・椅子の移動	毎年の申し送り事項の確認、スタッフアンケート結果を踏まえて準備と設営・運営をしている。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
スローガン「GROW SEIRYO」を主軸に据え、本校の教育理念や教育実践を魅力的に発信していく。 1. 今では周知徹底されてきた感がある「ICT 教育、土曜 GSP、推薦入試、中高一貫理数コース」などをさらにどう魅力的にみせていくか模索する。 2. 「新たな健康習慣への取り組み」に対し、正確な情報発信をし、安心安全な学校像を後押しする。 3. 本校の長年の看板である「コース制や制服」なども、時代に合わせ変化をしつつあるのであれば、必要に応じてタイムリーに伝えていく。	1. 申し送り事項を再吟味しながら、既存の学校案内や星稜タイムズ、web ページについて、積極的にリニューアルを検討している。 2. 「新たな健康習慣への取り組み」に対応すべく、「学習＞臨時休校中の ICT 対応」ページを作り直す準備に入っている。 3. 中高一貫コース一期生を送り出した今、中高一貫コースのページ構成を再検討し始めた。 4. 地元月刊誌や他県広報誌など積極的に掲載を依頼するため、情報収集を始めた。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
<b>特活課</b>		
生徒会活動および委員会活動において生徒の自主性・主体性を重んじ、活発に活動が行われるように支援する。	生徒会活動は、役員、執行部の生徒及び各委員会委員長が自ら企画した新たな取り組みを行うことができ、活発な活動が行われつつある。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
各部がそれぞれの目標を設定し、目標に向かって努力できる環境を整える。部活動加入率 70%以上を目指し、文武両道の実現を図る。	昨年度の部活動加入率は 77.1%であった。新生入生を対象に部活動のPRを効果的に行うと共に、各部が大会等の目標設定とプロセスを大切にすることで、より魅力的な活動となるように支援したい	満足度指標 A：合計 70%以上 B：合計 65%以上 C：合計 60%以上 D：合計 60%未満
自己の健康課題について認識させ、個別の保健指導を実施する。視力・聴力および歯科検診の受診率向上を目指し、保健だよりにクラス毎の受診率を掲載する等、受診意識向上に繋げていく。	昨年度の受診率は検尿 92%、内科検診、胸部 X 線、心臓検診は 100%であった。上記を除く視力・聴力および歯科で受診率が低い状況となっている。	満足度指標 A：合計 50%以上 B：合計 45%以上 C：合計 40%以上 D：合計 40%未満
具体的取り組み	現 状	評価の観点 達成度判断基準
<b>情報システム課</b>		
情報システムを安定して稼働させ、業務の効率化をさらに進める。	サーバ、iPad、教室内のプロジェクタ、ネットワークをはじめとした情報機器をストレスなく使用できるよう環境の整備を行っている。あわせて適切なソフトウェアの導入も行っている。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
本校の情報資産を、機密性・完全性・可用性という情報セキュリティ 3 要素の確保を行いつつ正常に維持を行う。	ファイアウォール、フィルタリング、ユーザ管理やアクセス権の設定・管理を適切に行っている。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
入試業務は情報共有によりチェック体制を整え、ミスの起こらないように業務を進めていく。また Web 出願に関しては日程等の確認を確実にし運用していく。	業務の効率化を進めている。 業務の内容によっては細かい部分の意思疎通が難しいことがあるので明確化していく。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった